

令和7年度 夏季研修

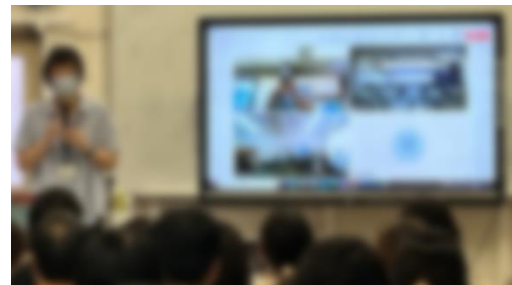
「アタッチメントの視点で、こどもに寄り添ってみよう」

令和7年7月24日（木）、臨床心理士の太田あかね先生に来ていただき、事例検討のグループワークを取り入れながら講義をしていただきました。3室をオンラインで繋ぎ、校内外合わせて約130名の先生方が受講されました。

●アタッチメント（愛着）とは

不安や恐れを感じたときに、特定の人にとくつく、あるいはくっついてもらうことを通して、主観的な安全の感覚を回復・維持しようとする心理行動的な傾向。先天的にもっているもの。

- 特定の人への接近を通した「安心感」の回復・維持
- 保護してもらえることの確かな「見通し」
- 「見通し」に支えられての自発的な「探索」
- 「一人でいられる能力」=自律性の獲得・拡張



●大人は子どもの「安心な避難所」・「安心の基地」

「安心な避難所」としての大人の役割

- ・崩れた感情に寄り添い、共感的に受け止め、それを大人が「鏡」になって感情や言葉を通じて映し出してあげる。
- ・崩れた感情を立て直し、安心感を回復させる。

★人に助けを求められるように育つ★

「安心の基地」としての大人の役割

- ・安心感を得て元気になった子どもを自分のところに留めておくのではなく、その背中を押してまた一人で探索や冒険に向かっていけるように応援し、離れたところから見守ってあげる。

★外との繋がりを強めていける★



自分には愛してもらえる価値がある！
他人は信じていい！
何かあったらあそこに行けばいい！

あっちで遊んでくるね！
学校に行ってきます！
〇〇にチャレンジしてみよう！



●事例検討を用いたグループワーク

「児童 A と友だちとの関係をどう築けばよいか」「保護者対応はどうすればいいか」を柱に、校内外の先生方で約30分間話し合い、出た意見を全体で共有しました。さまざまな事象が生起したとしても、「ダメなことはダメ！」と毅然と伝えることが大切と教えてもらいました。この毅然さが、今後、「この先生は自分のことを守ってくれる」という認識に変わっていくとおっしゃっていました。



幼少期の養育環境が不安定だったとしても、その後の出会い（先生、友人、恋人、養育者等）によってアタッチメントは形成されていく!!😊